

新学習指導要領に対応した学習指導計画作成上の留意点（学習指導案作成例）

小学校 運動領域 体育

※令和2年度九州学体研の指導案をもとに作成 学校体育研究会 HP にもアップ済み

第6学年2組 体育科学学習指導案

令和 年 月 日 () 校時
第6学年2組(男子〇〇名・女子△△名)
場 所 〇〇小 体 育 館
指 導 者 〇 〇 〇 〇

※視認性を高めるため、書体（UD フォント等）、大きさを工夫する。

※学習指導要領解説体育編（以下解説）の目標（P116～117「知識及び技能」：P121「思考力、判断力、表現力等」：P122「学びに向かう力、人間性等」）に当たる。語尾を「～**することができるようにする。**」に変えて表記する。

1 単元名 体づくり運動（体の動きを高める運動）

※「領域名」（解説 P24）「内容（型や種目等）」

2 単元の目標（第5学年及び第6学年の2学年分）

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたり **することができるようにする。**
 - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったり **することができるようにする。**
 - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を **することができるようにする。** （知識及び運動）
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に **伝えることができるようにする。** （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったり **することができるようにする。** （学びに向かう力、人間性等）

※体づくり運動のみ運動他は技能

※体育科の目標
解説 P17～23

※5・6年の目標
解説 P112～116

※学習指導要領の目標や内容（育成を目指す資質・能力）を示す際に、「知識・技能」という表記は間違いである。各資質・能力の区切りは「・」ではなく「、」である。

- ・ 知識**及び**技能（体づくり運動だけは知識**及び**運動）
- ・ 思考**力**、判断**力**、表現**力**等
- ・ 学びに向かう**力**、人間性等

3 運動の一般的特性

高学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。

高学年では、手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするとともに、低学年・中学年での多様な動きをつくる運動（遊び）を踏まえ、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて中学校での体づくり運動の学習につなげていくことが求められる。

※その領域や内容の運動の特性について明記する。
「体づくり運動」であれば、解説 P116 A 体づくり運動 1～8 行目
解説 P25～26 4 各領域の内容 (1) 運動領域の内容 ア 体づくり運動系

※この色は知識及び技能関連

※思考力、判断力、表現力等

※学びに向かう力、人間性等

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級では、
一方で、
これまでの体育科での学習を通しては、
一方で、

※本学級の児童の実態、体育科の授業における状況、これまでの運動経験及び日常的な運動活動について明記する。

※これまでの学習（他教科等含む）において、指導内容がどの程度身に付いているのか、また、本單元に関する運動の体験状況（体育学習、少年団活動等）について明記する。

(2) 「知識及び運動」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び運動」に関しては、

※体づくり運動のため、
運動 他は技能

※主語は児童

※知識及び技能
解説 P20～21
※系統表
解説 P174

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、

※思考力、判断力、表現力等
解説 P21～22
※系統表
解説 P182～183

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、

※学びに向かう力、人間性等
解説 P22～23
※系統表
解説 P184～185

※新体力テストのデータから単元とかかわる体力や学校として伸ばしたい体力の状況について明記する。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

体力テストにおいては、

総合評価の割合は、A・B 段階が〇〇%、C 段階が〇〇%、D・E 段階が〇〇%という結果であった。

〇〇平均より

男子は、 女子は、

DE 児童は、

男女ともに、

テスト項目「立ち幅跳び」、「〇〇〇〇〇」において、

授業や昼休みの様子から

※体力向上に向けた具体的な取組（各学校における体力向上プラン参照）についても明記する。

※体力の向上については、
解説 P7③ウ

※体力の向上を目指しとは、
解説 P22～

※体力は～
解説 P170～

※上記の児童の実態から、教師がどのような内容に重点を置き、指導していくかを具体的に明記する。
その際に、単元の目標を具現化するため、教師の意図的・計画的な指導が明記されなければならない。

5 学習を進めるに当たって

※主語は教師

本単元では、

単元を構成するに当たっては、

単元のはじめのオリエンテーションでは、

単元前半では、

単元後半では、

単元の終わりには、〇〇大会を

単元を通して、

※体づくり運動
解説 P11(エ)
P116～

※「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫する
解説 P18～19

「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、

授業前半の〇〇では、

授業後半の〇〇では、

その過程で、〇〇できるようにしていきたい。

学習カードは

そのために、

また、単元を通してタブレット端末を効果的に活用していきたい。

※主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
解説 P14～15

※研究の視点や
本時に該当する部分は
書体を変えたり、
太字にしたり、
アンダーラインを引くなどして
分かりやすくする。

本時において、

※主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、
解説 P161～162 P18～19

はじめの段階では、ペア活動（体の柔らかさや力強い動きを高めるための運動）を音楽に合わせて～

※課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して～ 解説 P9

なかの段階ではまず、「〇〇するためには、どうすればよいか」とねらいを確認する。

※課題を見付け、その解決に向けた学習過程とは～ 解説 P19

まとめの段階では、「〇〇するためには、〇〇すればよい」と学習のまとめをする。

カリキュラム・マネジメントの視点から、事前に保健における「心の健康」や「けがの防止」（第5学年）の学習を振り返ったり、「病気の予防」（第6学年）の学習を進めたりしておく。

それにより、児童が「体づくり運動」を学習する意義をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。

道徳科においても事前に「あきらめない心」や「相手を理解する心」などについて学習することで、学習中における自己や他者との関わり方の工夫につながり、体育科及び道徳科相互に学習効果が高まることを期待する。

単元途中や単元後も同様に、保健学習の「病気の予防」をはじめ、道徳や特別活動においても体づくり運動の単元を振り返りながら学習活動を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

カリキュラム・マネジメントについて明記する。（学校行事：運動会等含む）
※解説 P4④～5 P8② P14⑦

学習指導要領解説：総則編

①P236～237 【心身の健康の保持増進に関する教育】
（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）

②P240～241 【食に関する教育】

③P244～245 【防災を含む安全に関する教育】も参照すること。

※この色は「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（以下参考資料）関連

※保健で知識しかない単元でも評価の観点は全て「知識・技能」となる。

※「力」「等」はなく、区切りは「・」である。「思考・判断・表現」

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容 の ま ま り ご と の 評 価 規 準	<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりしている。 ・体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をしている。 	<p>自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>
①知識	①体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方について、言ったり書いたり <u>している。</u>	①自己の体力の状況を知ったり、体の様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付 <u>けている。</u> ②思考・判断（本時）	①体の動きを高める運動に積極的に取り組 <u>もうとしている。</u> ①愛好的態度
②技能	②長なわを用いて回旋の仕方や跳ぶリズム、人数などを変えているいろいろな跳び方をしたり、なわ跳びをしながらボールを操作したりすること <u>ができる。</u>	②ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの <u>かを見付け、それを生かした運動を工夫している。</u>	②運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合 <u>おうとしている。</u> ②共生
③技能	③人や長なわの動きに合わせて、用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすること <u>ができる。</u>	③グループで工夫した長なわ跳びをしながらボールを投げたり捕ったりする運動の行い方を他のグループの仲間に例示して見せたり、言葉で伝えたり <u>している。</u>	③運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果た <u>そう</u> としている。③公正・協力
			④運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組の良さを認め <u>ようとし</u> ている。④責任・参画
			⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配 <u>っている。</u> ⑤健康・安全

※参考資料 P27～31

①知識

②技能

③技能

単元の評価規準

※参考資料 P106 をそのまま転記する。

※低学年の知識について 事実的な知識の獲得のみに主眼が置かれがちだが、言葉や文章のみで知識を表出することは難しい。動きはできているが、言葉で説明できない場合は、「暗黙知」として捉える。（例：自転車に乗ることができると知識もあると捉える）

①思考・判断

※低学年の評価内容に「共生」は示されていない。

※本時に該当する部分は、**囲んだり、書体を変えたり、太字に**したりして分かりやすくする。

※「知識」と「技能」に分けて設定 解説 P117～119

※「思考・判断」と「表現」に分けて設定 解説 P121, 122

③表現

※「愛好的態度」、「公正・協力」、「責任・参画」、「共生」、「健康・安全」に分けて設定 解説 P122、P10ウ(ア)

※語尾 「～できる」(技能)

※語尾 「～している」(知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)

※語尾 「～しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外)

- ・単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てる。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするにあたり無理のない計画を立てる。参考資料 P52、56、59、63、67

※本時は罫線を太くする。

7 指導と評価の計画(7時間)

時間	1	2	3	4	5	6(本時)	7
指導内容	知	②技能 (長なわを用いた動き)	①知識 (体の動きを高めるための運動の行い方)	③技能 (人や物の変化に対応した動き)			
	思				①思考・判断 (自己や仲間の課題発見)	②思考・判断 (課題に応じた取り組み方の工夫)	③表現 (仲間に伝える力)
	態	⑤健康・安全 (場や用具の安全)	④責任・参画 (仲間との認め合い)	③公正・協力 (準備や片付け)	①愛好的 (積極的な取組)	②共生 (仲間との助け合い)	

※集合・整列 解説 P167(8)

1 集合、整列、挨拶、健康観察
2 主運動につながる準備運動

学習過程	10分	3 単元の学習内容確認	3 ペアでの運動 ○ 課題となる運動 ※「ひなたプログラム」(事例集)から選択 ※音楽に合わせて					
	10分	4 本時のねらいの確認【課題発見・解決策の創造】 「○○するためには、どうすればよいだろうか」 ※学びに向かう力、人間性等の内容						
	15分	6 グループで試しの運動 <長なわ> ○ 長なわを使っているような運動 ○ 運動の工夫の仕方についての確認	6 グループで工夫した運動 <長なわ> ○ 片足ジャンプ ○ 回転ジャンプ ○ 背中合わせジャンプ	6 グループで工夫した運動 <長なわ+ラパーリング> ○ 棒バラン ○ 輪投げキ ○ 2人3脚 ○ ジャンプ	6 グループで工夫した運動 <長なわ+フープやボール> ○ 輪跳び ○ ボール渡し ○ 背中挟み	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ ICT 機器を活用して、動きについての課題を発見	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ ICT 機器を活用して、動きを高めるためのポイントを確認	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ 工夫した動きとそのポイントを表現
	10分	7 本時のまとめ(学習カードの記入、振り返り、成果及び次時の課題の確認) 【課題解決】「○○するためには、○○すればよい」						

8 整理運動、片付け、挨拶

評価の重点	知		②技能 【観察】	①知識 【観察・カード】	③技能 【観察・ICT】		
	思					①思考・判断 【観察・カード・ICT】	②思考・判断 【観察・カード・ICT】
	態	⑤健康・安全 【観察】	④責任・参画 【観察・カード】	③公正・協力 【観察】	①愛好的 【観察・カード】	②共生 【観察】	

準備物 長なわ、棒、ラパーリング、フープ、ボール、タンバリン、タブレット端末、プロジェクター

※単元終了後、総括的な評価へ参考資料 P57

※評価方法 参考資料 P9、54

※保健との関連 解説 P160(9) P163(3)

※道徳科との関連 解説 P166～167 P224～231

※ICT 解説 P167(3)

※ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方である。単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要である。つまり、単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たることにより、指導内容が一層明確になると考えることができる。 参考資料 P57

8 本時の学習(6/7時間)

※6 評価規準：思考・判断②との整合性を図る。
本時の目標の語尾は「できるようにする」。

※目標なので
思考力、判断力、表現力等

(1) 本時の目標

- ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの
かを見付け、それを生かした運動を工夫することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価項目

- ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの
かを見付け、それを生かした運動を工夫している。(思考・判断・表現)

※6
思判②
と同文

※本時の目標(学習内容)を実現するために、どのよう
に学習活動を仕組んでいくのかを具体的に明記する。
7 指導と評価の計画：第6時との整合性を図る。

※評価項目なので
思考・判断・表現

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
はじめ 10	1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 主運動につながる準備運動 3 ペアでの運動 ・ 体の柔らかさや力強い動きを高めるための運動 ・ 音楽に合わせた運動 4 本時のねらいの確認	・ ひなたプログラム(事例集)から選ばせることで、個人の課題解決となる運動に取り組めるようにする。	○：評価項目(評価方法)【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
なか 25	5 全員で共通の運動 ・ 移動しながら長なわ 6 グループで工夫した運動 ・ 長なわと用具の組み合わせ ・ ICT 機器を活用して動きを高めるためのポイントを確認 ・ 確認したことを生かして、動き方を工夫 ・ 思考と試行の往還 ※「ねらい」と「まとめ」が一致すること。	・ 前時までの課題解決を振り返らせることで、動きをさらに工夫しようという挑戦意欲を高めることができるようにする。 ・ ICT 機器を活用して動きをスローモーション等で確認させることで、動きを高めるための条件や負荷を工夫することができるようにする。 ・ 状況に応じ、活動を止め、発問をしたり、児童同士で気付きを交流させたりして、思考と試行を往還させることで、課題を解決できるようにする。	※本時の目標(学習内容)を実現するために、どのような指導を行うかを教師の立場から明記する。「どうやってそれをするのか」「なぜそれをするのか」「そうするとどうなるのか」等を明記する。 ※評価する学習活動と横並びとなるようにする。評価項目をそのまま明記する。 ○ ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの かを見付け、それを生かした運動を工夫している。(観察・カード・ICT)【Aの例】 個人やグループの課題を踏まえ、試行錯誤しながらよりよい課題解決に取り組んでいる。	※B評価 6②・8(2) と同文 友達のよい動きを見付けることや、条件を変えることについて教師が具体例を挙げて考えさせる。 ※C評価児童への手立て
まとめ 10	7 本時のまとめ(学習カードの記入、振り返り、成果及び次時の課題の確認) 動きを高めるためには、○○すればよい。 8 整理運動、片付け、挨拶	・ 課題解決を通して、良かった言葉かけや工夫した条件などを絵や図、文にまとめ、発表させることで、動きを高めるためのポイントに気付き、学びを自覚することができるようにする。	※A評価 「十分満足できる姿の設定例」 参考資料 P55	※評価方法 参考資料 P54 参照 AとCの児童だけチェックする。チェックがつかない児童はBである。

※音楽
解説
P159(1)

※評価項目が知識・技能であれば、解説 P119 参照 運動が苦手な児童への配慮の例
主体的に学習に取り組む態度であれば、解説 P122、123 参照 運動に意欲的でない児童への配慮の例